



Kobe University Repository : Kernel

タイトル Title	<新刊紹介>「時代ノ名著」『社會將來ノ樂觀』
著者 Author(s)	大西, 猪之介
掲載誌・巻号・ページ Citation	経済學商業學國民經濟雜誌,13(3):539*-548
刊行日 Issue date	1912-09
資源タイプ Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
版区分 Resource Version	publisher
権利 Rights	
DOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/00051925

Create Date: 2017-12-18



新刊紹介

「時代ノ名著」『社會將來ノ樂觀』

休暇ニナツテ徒然ノ餘リ學校へ行テ何方立派ナ本ハナイカト探シ廻ツタ處、フト岡本利吉ト云フ方が本年三月富山房カラ右ノ一書ヲ公ケニセラレタ事ヲ發見シタ。其表ニハ「社會主義ノ根本的破壊者トシテマルサスノ人口論リカード」ノ勞銀論地代論マルクスノ社會主義ヲ反駁シ……國民タル者何人ト雖モ必ズ一讀スベキ時代ノ名著ナリ」ト銘ガ打ツテアリ、發刊後二箇月ナラズシテ既ニ再版チ出シタ著述デアアル。經濟學者デナイ此無名ノ人ノ手ニ、然モ僅ニ菊版二百二十三頁定價五拾錢デ、此様ナ「名著」ガ發刊サレタトハゲニ「三日見の間の櫻かな」ダト驚イテ早速拜讀シタ。

卷頭板垣伯ガ「忠實ナル研究」ト評セラレ、下村學士ガ「二人意ヲ強ッスル」ト賛セラレタ(但「書中ノ見解ニ就テハ意見ヲ異ニスルモノナキニアラズト雖モト直ニ逃ゲラレタ)ニ依テ愈々強メラレタ敬ハ寔ニ老練ト後ニ至ツテ感服シタ。ニ依テ愈々強メラレタ敬意ハ、其自序劈頭ニ「マルサス氏其他ノ社會主義者」ト來タノテ根本的ニ打破セラル、ニ至ツタ。ゴツドウチン一派ノ議論ノ打破ニ餘力ナカツタマルサスチ社會主義者ダトハ奇想正ニ

天外ヨリ落ツルモノ、寔ニ以テ「大ニ人意ヲ強ウスル」次第
テアル。

勇ヲ誠シテ本文ニ入ルト共ニ、私ハ益々著者ノ警拔ナル卓
見ニ驚駭ノ意ヲ深ウシタ。著者ノ論理ハ全ク私共トハ違ツタ
筋道ヲ違ツテ居リ、又著者ノ讀マシメタル(ルベキ)マルサスヤリ
カドトノ著書ハ今日世ニ行ハル、トハ全ク異ツタル版本デ
アルニ相違ハナイ。然ウテナケレバ到底出テ來サウモ思ハレ
ナイ議論ガ至ル處ニ散在スルカラテアル。他人ノ説ヲ採納シ
テ之ヲ明瞭ニ理解シタ人が大思想家(六十)テ其他ニ大思想
家ガナイモノトスルナラバ、此意味ニ於テ著者ハ大思想家以
外ノ縛テアル。ト云ツタハケテハ人身攻撃ガト思ハレテハ
非常ノ迷惑ヲ感ズルカラ、少シク具體的ニ例證ヲ擧ゲル事ヲ
許シテ戴キタイ。

第一ニ著者ノ所謂「社會主義」ノ根本的破壊ガ那邊、進行
レテ居ルカヲ調ベテ見ヤウ。

百四十九頁ニ著者ハ

「土地ハ骨董品ノ様ニ幾等時代ガ進歩シテモ決シテ(?)其分
量ハ増加セヌ。而テ骨董品ガ騰貴スルト同ジニ地代ガ騰貴ス
ルノモ當然自然ノ經濟法則テアル。如何ナル社會主義者モ骨
董品ノ私有ヲ禁止シナカツタ。土地許リ私有ヲ禁止シヤウト
云フハ餘リ勝手ナ議論デハアルマイカ」。

ト論ジテ居ラル、是ガ土地國有論反對ノ有力
ナル證據ナノデアル。此ノ議論ヲシテ愈々有趣
味ナラシムルハ右ノ反駁ガ同書十五頁ニ與ヘラ
レタ社會主義ノ定義ト矛盾シテ居ル事デアル。

社會主義トハ生産要件ノ國有ヲ主張スルモノ也
ト著者ハ定義シテ居ラレ、更ニ同書四十九頁以
下ニハ此資本ノ意義ヲ説明シテ同書中最モ無難
ナ論ヲナシテ居ラル。モシ著者ニシテ之ヲ忘
レラレタノデナケレバ百四十九頁ノ議論ハ極メ
テ、明白ナ自家撞著デアルト申サバルヲ得ナイ。

其ニ次デ著者ハ現在ノ企業組織ハ最モ完全デ
放任シテオケバ自ラ黃金時代ニナルト繰返シ説
明シテ社會主義者ヲ駁シテ居ラレル。若シ氏ガ
此際マルクスヲ目的トシテ論ジテ居ラル、積ナ
ラバ其ハ世ニモ稀ナル御門違イデアル。マルク
スハ決シテ現代ノ社會組織ガ完全デアルトモ不
完全デアルトモ論ジハシナカツタ。完全ナリヤ
否ヤ、倫理的ナリヤ否ヤ、正義ニ合スルヤ否ヤ其

シナ事ハマルクスニ取テ問題デナイ。資本論一
卷英譯(一八九一年版)五六頁ノブルードン攻撃
ヲ御一讀下サレタイ。ソムバルトノ言ヲカリテ
云ハ「一瓦ノ倫理ダニ含マザル」「マルキシズム
ス」ニ倫理的攻撃ヲ御加ヘニナル事ダケハ御許
ヲ願イタイ。死ンダマルクスニ口ハナイ、彼ハ
飛ンダ濡衣干スニ由ナシト泣クデアラウ。

氏ガマルクスヲ解シテ居ラレナイ證據ガモ一
ツアル。一八頁ニ

「モシ社會主義者ノ云フ通り増加シタ労働者ガ皆乞食テ米味
増ノ外ニハ何物モ買入レル資力ガナイトセバソレコソ労働者
ノミナラズ資本家ノ死活問題テ産業ハ衰滅スル」

トアル。然リ。ダカラコソ、マルクスハ資本制
崩壊ス可シト斷ジタノデアアル。何モ氏ノ考ヘラ
ル、様ニ土地ト資本トヲ故意ニ取上ゲヤウト云
ヌソデハナイ。強イテ取リ上ゲズトモ資本家自
ラ斃ル可シト云フタノデアアル。マルクスガ崩壊
論ヲ稱ヘタ理由ヲ其儘ニ續述シテ直ニ「資本家

ト労働者トハ町ノ兩側ノ様ニ共々ニ榮ヘテ行ク
モノデアアル」ト結ブ様ナ論者ハ其類甚ダ稀デア
ル。私ハ失禮ナガラ著者ニ向テソムバルト一冊
位ハ緋カレン事ヲ御勸メシタイ。セメテ國民經
濟雜誌九卷三及四號ニ載ツテ居ル小西虎雄氏ノ
「ソムバルトノ觀タルマルクス」ト題スル翻譯ナ
リトモ一讀セラレン事ヲ御勸メスル思ヘバワグ
ナーガ嘗テ自ラ號シテ社會主義批評家トナス論
客ガ毫モ其社會主義ニ就テ知ル所ナシト嘆シタ
ノハ切ニ吾人ノ同感ニ堪ヘザル所デアアル。(尙ホ

中央公論本年四月號河上學士進化論ト社會主義參照。

之ニ續イテ指摘シタイノハ著者ノ「トラスト
觀」ノ一種嶄新ナ事デアアル。著者ハ現時ノ企業
組織ハ最モ完全デ此儘ニ放任シテ置ケバ遠カラ
ズ黄金世界ニナルト斷ジ乍ラ、「トラスト」其他
ノ獨占事業ハ禁制セテバナラヌトセラル。然
シ「トラスト」ヤ獨占事業ハ實ハ現時ノ自由競争
制度當然ノ產物ナノデアアルマイカ。モシ之ヲ禁

ズルヲ要ストスルノガ眞ナラバ自由放任デ黄金時代ガ來ルト云フ議論ハ御取消ヲ願ハチバナラヌ。

以上ヲ以テ著者ノ社會主義攻撃ノ價値如何ハ略ホ明ニナツタラウト思フ。マルクスノ思想ハ著者ノ攻撃ニ依テ破ル、可ク餘リニ堅固デアツタ。斯ク申セバトテ余ヲ目スルニ社會主義者ヲ以テセラル、勿レ。余ハ最も熱心ナル社會主義反對者デアル。余ハマルクスノ中ニ救フ可カラザル缺點アリトナス唯攻撃スベクンバ宜シク單刀直入其眞ノ急所ヲ摘發スベシ勝手ニ妄想ヲ逞ワシテ的ナキニ矢ヲ放ツ勿レト云フニスギヌ。一歩ヲ進メテ著者ノマルサス攻撃ヲ評シタイ。

著者ハ極メテ不思議ナ人口論解釋ヲ下シテ居ラレル(二十頁)。人口論ノ一版ト二版トニ如何程ノ

差違ガアルモノヤラ、ナイモノヤラ一向無頓著デアル。而テ「人口ハ一定ノ數ニ達スレバ決シテ増減スルモノデハナイト確信スル」ト書イテ之デマルサスヲ打破シタ積ナノダカラ驚カザルヲ得ナイ。ドウモ著者ハ二言目ニハ「確信スル」ト云フ文句ヲ大上段ニ振りカザサル、辯ガアル。

少シ議論ガ込ミ入ツテ來ルト直ニ「確信スル」デ片附ケラレテシマハレル。確信ト云ヘバ議論ノ問題ニ非ズシテ信仰ノ問題デアル。信仰ノ問題トナレバ余ハ岡本君ノ確信ヨリモマルサスノ確信ノ方ニヨリ多クノ敬意ヲ拂ハザルヲ得ナイ。特ニ二十頁以下數頁ニ亘ル生存競争ト適者生存論ノ如キハ余ガ茲ニ紹介批評スルノ勇氣ヲモ缺ク程ニ奇拔ナル議論デアル。「衛生ニ無頓著ナ人が自滅シテモ生存競争デナイ」ト云フ。自ラ好ンデ衛生ニ無頓著ナノナラバ好イ。今日多數ノ無産者ハ自ラ衛生ヲ重ンゼントスルモ、衛生ヲ重ンズル能ハザルヲ如何セン。著者ハ之デモ尙ホ生存競争ナシト思惟セラル、カ。生存競争ヲ論ゼラル、ナラバ岡博士ノ進化論講話位ハ豫メ御覽オキ下サレタイ。

「マルサス氏ノ人口論ハ誤デアル」ト題シテ三十二頁以下十八頁ニ亘ル詳論ハ全ク著者ガマルサスヲ讀ンデ居ラレナイカラ出タ「誤デアル」

「何人モ讀マズシテ總テノ人ニ批難セラル、書物ヲマルサスハ殘シタ」トポーナーガ喟然トシテ嘆息シタノモ無理ハナイ。但此點ニ就テハ我國家ノ間ニスラ之ト五十歩百歩ノ論ガアルカラシテ經濟學者デナイ著者ニ多クヲ求メルコトヲ見合ハス。詳シクハ經濟大辭書第五卷ニ掲載セラル可キ拙稿「人口」ニ讓ル。

次ハ「リカード」地代論批評デアル。

リカードノ地代ハ餘剩ナリトノ有名ナル説明ガ果シテ幾許ノ程度ニ於テ真ナルヲ失ハザルモノナリヤ寔ニ大ナル問題デアツテ、福田博士ノ如キハ全ク之ニ反對シテ居ラレル(經濟學研究續一八五頁以下「地代ハ餘剩ナリヤ」及經濟學教科書一八六頁)シ、山崎博士ノ如キモ大ニ異論ヲ稱ヘテ居ラレル(國家學會雜誌第二十卷第六號「地代ハ全然生産費ニ含蓄セラレザルカ」)。ダカラ著者ニシテ右ニ博士ノ論ヲ參照セラレタランニハ遙ニ尊敬スベキ敘述ガ出來タラウニ、惜イ哉、其レダケノ勞ヲ取ラレナ

カツタガ爲ニ、極メテ淺薄ナ駁撃ヲ加ヘ得ルノミデアル。

「人口ガ際限ナク増加スルモノトスレバ事實トナルカモ知レナイガ、私ハ遠カラヌ將來ニ人口ハ増加ヲ停止スルコトヲ確信スル(之ガ如何ニアヤシキ確信ナルカハ前ニ述ベタ)故リカード氏ノ地代論ニハ賛成スルコトガ出來ナイ」

ト云フ風ノ二階カラ目薬トモ譬フ可キ様ナ亂脈ノ攻撃ヲ加ヘテ満足セザルヲ得ナカツタノモ其爲デアル。「地代論ハ何レニセヨ、私ハ唯ダ地代ガ騰貴シテモ穀價ハ騰貴シナイコトサヘ證明スレバ充分デアル」ト書カレタ一節ガモシ有名ナル「地代ハ毫末モ穀價ノ一部ヲナサズ又ナス能ハズ」テフ名句ガリカードニアルヲ知ツテ論者ノ目ニ入レバ寧ロ甚ダ滑稽ニ感ジラレテ、其レ位ナラ何故ニリカードノ説ヲ辯護セラレナカツタダラウカト怪シマレルノモ其爲デアル。世界ノ人口ガ今日ノ四倍五倍ニナルモ耕作法サヘ改良サレ、バ穀物ノ產額ガ増シテ穀價ハ先ヅ

騰貴シナイコト、安心シテ宜カラウト云フ風ナ
樂天觀ヲ述ベ更ニ耕作法ノ改良ガ理學ノ進歩ニ
ノミヨルカノ如ク論ジテ、實際經濟生活上何物
ガ耕作法ノ進歩ヲ齎スカニ關スル理解力ノ全然
缺乏セルコトヲ表白セラレタモ亦之ガ爲デア

著者ノ諸學說ニ對スル意見ノ如何ニ根柢ナキ空中樓閣ナル
カハ以上ノ簡單ナル紹介ヲ以テ略ホ明カナリトシテ、以下轉
シテ著者ノ自說ノ價值如何ヲ檢シヤウ。

著者ガ其著ノ生命トシテ最も高調セラル、ハ
資本ガ増加スレバ利子ガ下リ、物價ガ下リ然モ
賃銀ハ上ツテ世ノ中ハ黃金世界ニナルト云フ事
デア。資本ガ増殖スレバ利子ガ下ルト云フハ
私モ異論ガナイ。但「利子ガ安クナレバ必ラズ物
價ノ下落ヲ惹キ起ス」(三頁)トハ極メテ大膽デ、
著者ノ様ニ氣前ノ好イ人デナケレバ斯ウスツバ
リト書キ下シ得ヌ論斷デア。固ヨリ他ノ事情
相等シトスレバ金利ガ安イ方ガ高い場合ヨリ物
價ヲ低落セシムル傾向ノアル事ハ疑ガナイ。此

點ニ於テ一〇四—一〇六頁ニ亘ツテ著者ガ多數
ノ統計ヲ引用シテ來ラレタノハ無用ナ、讀者ニ
取ツテハ迷惑ナ仕業デア。唯單ニ迷惑ナノミ
ナラ好イガ著者ハ更ニ勞銀ノ引上ラ此ノ間ニ搬
ンデ來テ兎テモ私共ノ様ナ粗笨ナ頭腦デハ解ス
可カラザル奧妙ナ議論ヲ試ミラレル。敢テ問フ
ナゼ勞銀ノ騰貴ト物價ノ下落トガ相伴ヒ得ルカ
「工業品ノ價格ハ其生産費(利子、利潤、賃銀)デ
決定セラレル」ト著者ハ云フ(八頁)。少々異論ガ
アルガ先ヅ大體ニ於テ然リ。ダカラ英吉利ノ自
由貿易論者ハ穀價ノ騰貴ニ基ク勞銀從テ生産費
ノ昂騰ヲ恐レテ關稅改革ニ反對シテ居ルノデア
ル。又英吉利ノ炭坑主ハ最低賃銀ノ決定ニ關シ
テ大ニ争ヒツ、アルノデア。更ニ又各國ノ工
場主ハ労働者保護法ハ實際勞銀ヲ昂騰セシメテ
物價ヲ引上ゲ依テ以テ産業ノ衰微ヲ來スト反對
スルノデア。然ルニ茲ニ勞銀上ツテ然モ物價
ハ下ルト云フ新說ハ出現シタ。是レ實ニ千古ノ

卓見デアル。然ラバ著者ハ如何ニシテ之ヲ證明セントセラル、カ。著者ハ勞銀ガ物價ニ對シテ非常ナ影響ヲ有スルヲ認メ、勞銀ガ高クナレバ物價ハ自然ニ上ルト書イテ居リ乍ラ^(五二)且ツ又勞銀ガ高クレバ物價ハ決シテ低廉デアリ得ナイトナシ乍ラ^(五三)他ノ頁デハ一生懸命ニ勞銀上ルモ物價下ルト論ズルノデアアル。其理由ハ極メテ簡單デ「利子ガ安クナルカラ物價ヲ安クスルガ同時ニ幾分カ高イ勞銀ヲ支拂ヒ得ル」ト云フニアラシイ^(五四)之ハ明カニ自家撞著デア

ル百二十九頁ニ著者ハ

「勞銀ト利子ト利潤トハ決シテ互ニ制限シアフモノデハナク各々獨立シテ其額ガ定メラレル利子ヤ利潤ガ高カラウガ安カラウガ勞銀ニハ何ノ影響ガナイ」

ト頗ル耳新シイ說ヲ吐イテ吾人ヲ敬服セシメントセラレタデハナイカ。今日一般ノ經濟學者ノ略ボ通説トスル利潤餘剩說ヲ排斥シテ

「勞銀ガ高カラウガ安カラウガ利潤ヤ利子ニ何ノ關係モナイ資本家ヲ勞動者ノ仇敵ト考ルハ企業組織ノ外見許リヲ見テ未

ダ其堂ニ入ラナイ淺薄ナ人デアアル」

ト萬丈ノ氣焰ヲ擧ゲラレタデハナイカ。一應此相容レザル二箇ノ斷定ノ何レガ著者ノ眞意ナルカ御教ヲ願イタイ。假ニ、利子ガ安クナル故物價ヲ引下ゲ乍ラ尙幾分カ高イ勞銀ヲ支拂ヒ得ルノダト云フノガ著者ノ眞意ダトスル。サスレバ利子低落ノ程度ガヤガテ勞銀引上ノ程度ヲ決スル筈デアアル。而テ勞銀ガ次第ニ多クナルニ反比例シテ物價ガ下ルカラ勞動者ノ生活ガ漸々樂トナツテ黃金時代ニナルノダトスレバ^(六四)利子ハ勞銀ト反比例シテ又勞銀ニ先チテ漸次減少シテ行カ子バナラヌ筈デアアル。然ルニ八十頁ニハ「資本ハ幾籌増加シテモ決シテ利子ハ專門ノ資本家ノ生活ヲ維持スル額ヲ下ルコトハナイ」

ト書イテアル。サア愈々論理ハ奧妙トナツタ。此専門ノ資本家ナル一語ノ意義ハ九十三頁ノ中頃ノ敘述ニ依テ甚ダ曖昧ノモノト化スルノデア

モ今日ノ様ニ人口ガ増加シテハ到底見ル可キ生活程度ノ上進ハアリ得ヌトカウツキースラ恐レテ居ルニ著者ハ利子ノ存在ヲ許シ乍ラ世ハ黃金世界ニナルト主張スル。但其理由ハ教ヘラレナイ。恐ク又例ニ依テ然カ確信セラル、ノデアラウ。確信ナル一語ガ來ルト共ニ余ノ批評ノ筆ハ忽チ縮ミ上ツテシマウノデアル。

余ハ最早ヤ著者ノ本城ニ突入シタ。其突入ガ成功シタカドウカヲ決スルハ本誌ノ讀者ノ任デアル。茲ニ余ハ落チ行ク端武者ニ目モクレズ殘敵中最モ勢力強キ一隊ニ迫リタイ。ソレハ此著ニ於ケル倫理ト科學トノ混同デアル。

經濟學ノ中ニ倫理的價值判斷ヲ容ル可キヤ否ヤト申ス様ナ難解ノ問題ヲ茲ニ論ズルノ違ハナイ。私ハ唯著者ニ向テモ「斯クアリ」What is, Was ist ト「斯クアル可キ筈」What ought to be, Was sein sollen トハ區別シテ戴ク事ダケハ要求セテバナラヌト確信スル。此區別ガナイ爲ニ此書物ハ一體學問上ノ著者ナノカ倫理上ノ心得ヲ説イタモノナノダカ譯ガ分ラナイ。例バ著者ハ

政治家ヤ企業家ヤ資本家ハ勞働者小作人ヨリモ社會上ノ地位ハ高クシテ特別ノ尊敬ヲ受ケ得ルモノトスル事ヲ主張セラル(二一頁)。而シテ

「勞銀ハ勞働者ノ一家ヲ幸福ニ生活セシメ得レバ充分テ其上ヲ望ムノハ惡ムベキ嫉妬ノ不徳デアル、地主ヤ資本家が奢侈豪遊ナスルノヲ見セ付ケラレタリトテ嫉妬スルニ當ラナイ雅量ハ男子最大ノ美德デアル(三十一頁)」

ト叫バル、。モシ之ダケノ大膽ガアルナラバ最早ヤ問題ハ存シナイト云ヒ得ル。今日勞働者問題ノ起ツテ居ルノハ決シテ食フカ食ヘヌカノ問題デナイ、實ニ勞働者自身ガ今一層立派ナ生活ヲ要求シ得ルト自覺セルカラデアアル。淵源深クシテ又遠シ。今日ノ勞働者ハ自分モ亦市民ナリ人ナリト自覺シテ居ル。佛蘭西革命以來人ハ平等ナリト信仰シテ居ル。又自分等アルガ爲ニ資本家ハ美衣美食シ得ルノダト確信シテ居ル。サレバコソ識者ハ今ヤ勞働問題ハ胃ノ腑ノ問題デナクツテ文化ノ問題ダト痛論シテ居ルノデアアル。此様ナ自覺ヤ信仰ヤ確信ヤガ合理的ナリヤ否ヤ

ハ此様ナ自覺ヤ信仰ヤ確信ヤノ存在スルヤ否ヤトハ別問題デアル。私ハ此自覺ガ好イトモ惡イトモ申サナイ。唯此様ナ風潮ガアルト云フ。何程著者ガ嫉妬スルハ男子ノ雅量ニ反スト罵ラレタトテ今日ノ勞働者ハ著者程ノ雅量ガナイト云フ事實ハ遂ニ如何トモシ難イデハナイカ。釋迦ヤ孔子ト云フ様ナ二度ト人間世界ニ生レ出デソウモナイ人間ガ苟クモ良心アル者ナラ否デモ應デモ感心セナケレバナラヌ程立派ナ道ヲ説イテモ餘リ高尚ニナツタ様ニモ思ハレナイ人間ノ事ダカラ著者モ餘リ熱心ニ此種ノ教訓ハ垂レ給ハヌ方ガ然ル可キカト思ハレル。然シ此種ノ科學ト倫理ノ混同ハ本書ノ至ル處ニ散在スルノデ、六十八頁ノ正當ナ報酬云々ノ如キ、七十四頁ノ國字改良論ノ如キ、九十六頁ノ官營反對ノ理由ノ如キ、百三十八頁ノ天職論ノ如キ、百四十頁ノ器械ノ論ノ如キ、百五十七八頁ノ地代論ノ如キ、百六十頁ノ資本金恩人論ノ如キ皆然リ。基

督ガ學者ノ如クナラズ權威ヲ有ル者ノ如ク教ヘタノハ有難イ。然シ、學者迄ガ基督ノ譽ニ做ツテハ學者ト宗教家トノ區別ノ意義ハ没却サレル右ヨリ一步ヲ進メテ私ハ根本的ニ社會ノ將來ヲ樂觀スルヤ悲觀スルヤト云フガ如キ問題ハ嚴格ニ論ジテ科學ノ範圍内ニ屬スルモノナリヤ否ヤヲ疑フ者デアル。近代人ハ不幸ニシテ著者ノ如ク容易ニ物ヲ確信スルヲ得ズシテ極メテ懷疑的デアル。生活程度ノ向上ヤ人口ノ増加ニ一定ノ限界ガアルト信ジタリ(四十一頁)全然自動的ノ器械ハ發明サレナイモノト安心シタリ(一四〇頁)世界各國ノ連合ガ出來上ツテ軍備ガ撤廢シ得ルト夢想シタリ(二二二頁)スルノハ著者獨特ノ想像デ到底客觀的ニ何人ニモ承認セヨト云ヒ得ベキ命題デハナイ。「豫言ハ科學ノ使命ニアラズ」テフアドルフ、ウエーバーノ一言ハ著者ニ依テ抑々如何ニ解釋セラル、ノデアアルカ、先ヅ之カラ論ジテ戴キタイト思フ。

以上纏々トシテ卑見ヲ開陳シタガ、最後ニ私ハ著者ニ向テ一ツ御願シタイ事ガアル。夫レハ外テモナイ、今少シク日本ノ諸學者ニ對シテ敬意ヲ拂ツテ戴キタイト申ス事テアル日本ノ經濟學界ハ未ダ甚ダ幼稚テアルトハ云フモノ、幾多ノ諸先輩ノ苦心ニ依テ先ツ西洋ノ思潮トサシテ後レメ所迄追ツク事ヲ得タ。日本ノ經濟學者ハ經濟學者以外ノ人々ガ經濟學上ノ論議ヲ公ケニセラル、際充分ナル好意ヲ以テ之ヲ迎フルダケ

ノ雅量ハ有スル事ト思フガ、ソレト同時ニ、否、ソレアルガ故ニ經濟學上ノ論ヲ立テラル、人ニ對シテ一應既ニ經濟學者ニ依テ公刊サレタ代表的著述ヲ參照セラレン事ヲ請求スルダケノ道義の權利モ發生スルモノト感ゼザルヲ得ナイ。例バ此書ノ如キヲ世ニ問ハントスル人々ニ向テハ少クトモ金井博士ノ社會經濟學、福田博士ノ經濟學講義及研究、津村教授ノ國民經濟學原論等ノ一讀ヲ當然正當ノ義務トシテ要求シ得ルト私ハ考ヘル。以上ノ諸書ハ生意氣ナ申分ナガラ若干ノ缺點ヲ藏シテ居ツテ決シテ完璧ヲ以テ許ス可キデハナイトハ云へ、尙日本ノ學界ノ此方面ノ代表的產物ナリト目シ得ルノデ、若シ著者が此何レナリトモ一讀セラレタナラバ恐ク今少シク尊重スベキ作品ヲ公ケニスル事ヲ得ラレタデアアラウト推察スル。

シユモラー教授ハ本年ノ年報第二輯所載「社會政策ニ關スル新著述ニ就テ」トノ論文ノ中テ確カ或ル行政官吏ザ一般的

ナ著述ヲ公ケニシタ事ニ對シ此様ナ事ハエンゲルスノ様ナ人間ニアラザル限り成功覺束ナキ企圖テ凡人ナリセバ寧ロ其從事セル事業ニ付テノ特殊の研究ヲ發表シタ方ガ然ル可シト云フ風ナ忠告ヲ與ヘラレタ。

又内田魯庵氏ハ本年一月頃「學燈」テ日本ノ出版部數ハ甚ダ多キニ登ルケレドモ其内ニバ「簡ガイ、節」ダノ「サノサ節」ダント云フ風ナモノヲ含ムテ居ツテ眞ニ見ル可キ著述トテハ極メテ少イト慷慨セラレタ様ニ記慮スル。

凡ソ一度書ヲ公ケニシタル後ニ尙研究ヲ續クルナラバ何人ト雖モ必ズ其不完全ヲ悟リ寧ロ印刷セシメザリシナラバト悔ムニ至ル。余ハ此書ノ著者が余ノ駭評ニ依テ一日モ早ク右ノ自覺ヲ得ラレ、而テ全ク新ナル内容形式ニ於テ眞ニ不朽ナル可キ大作ヲ公ケニセラレム事ヲ祈ツテ此筆ヲ措クモノデアアル文辭往々禮ヲ失スルノ跡アリ、モシ著者ニシテ此文辭ノ下ニ潛ム余ノ精神ヲ諒セラレタラムニハ眞ニ望外ノ至幸デアル。

(八月六日稿) (大西猪之介)